

3 どうする教育相談の実際

(1) 進め方の基本は

積極的傾聴（アクティブ・リスニング）

教育相談を進める上で最も大切なことは、児童生徒の話に「耳と心を傾けて、能動的に聴くこと」です。「聴くこと」は決して受け身の対応ではありません。どんな理由があり、どのような悩みをかかえているのかと、背後にある気持ちを考えながら聴き、そのことが相手に伝わるような聴く姿勢を「積極的傾聴」（アクティブ・リスニング）と言います。これを続けていくと、児童生徒は「話を聴いてもらっているんだな」「もっと話をしたいなあ」という気持ちになってきます。それと同時に、話すことによって気持ちも楽になり、より深く自分を見つめることができるようになります。



教師は、どちらかというと一方的に話しがちです。日ごろから児童生徒の話に耳を傾けることを意識し、心がけたいものです。

① どんな面接をしますか

～ 受け入れましょう ～ 《 受 容 》

まず、児童生徒の話に対して、批判や批評などせずに、ひたすら聴くことです。

「うんうん」・「なるほど」・「そうなの」

などの言葉かけやうなずき、顔を見つめる、身を乗り出すといった傾聴する態度によって、児童生徒は一層安心して自由に話すことができ、言葉が引き出されます。また、話を聴いてもらえたことで、児童生徒は教師に受け入れられたと感じ、信頼感も生まれます。

～ 繰り返しましょう ～ 《 繰 り 返 し 》

話の内容を確認し、話を促進させるため、ポイントとなる言葉や、最後に話した言葉をとらえて児童生徒に返します。